

## 宇都宮市立陽南中学校 第3学年 生徒質問紙

### ★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「携帯電話・スマートフォン・コンピュータの使い方について家の人と約束したことを守っていますか」の回答に対し、きちんと守っていると答えた生徒が50.2%である。全国32.2%、栃木県38.8%を大きく上回っている。本校のスマホ安全使用教室等の取り組みや、保護者会等を通じての保護者への啓発が成果を上げていると考えられる。

○「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」の回答に対し、41.5%の生徒が当てはまるとし、どちらかといえば当てはまる34.5%と合わせると76%ができると答えている。これは、あてはまる全国32.5%、栃木県37.5%、どちらかといえばを合わせて栃木県70.5%、全国66.6%よりもはるかに高くなっている。日頃からの生徒との人間関係の良好さから、信頼できる大人が周りにいるという子供たちへの安心感につながっている。

●「学校の授業以外に普段1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」の回答が、2時間以上が26.2%で、栃木県36.1%、全国35.2%と10%近く低くなっており、家庭での学習時間の不足が顕著である。学校での学習内容の復習や、予習の時間がとられていないことが、学力の伸び悩み、理解力の不足につながっていると考えられる。

●「1.2年生の時に受けた授業でICT機器をどの程度使用しましたか」という回答で毎日、週3回以上使用したという割合が、20.1%であり、県の49.5%、全国の50.95%と比較すると大きく使用頻度が下がっている。同じように、ICT機器を使用し、学校で学級の生徒と意見を交換する場面等も県や全国に比べると頻度が少ない。

●「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることができていますか」が当てはまると答えた生徒が27.9%であり、全国の41.2%、県の34.1%と比較すると話し合い活動の少なさが目立つ。昨年もコロナ禍であり、話し合い活動が十分にできる環境ではなかったが、ICT機器を使用し、生徒の意見や考えを可視化し対話的な授業を今後も進めていく必要がある。

## 宇都宮市立陽南中学校（第3学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

### ★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・生徒の学ぶ意欲の育成や基礎・基本の確実な習得に努める。 ・家庭学習の充実 ・系統性のある継続したキャリア教育の取り組みに努める。	・学業指導の理念・宇都宮モデルを踏まえる。 ・魅力ある学校づくり地域協議会と連携し、課外学習の実施。 ・タブレット端末を活用しながら生徒一人一人の家庭学習の定着を図るとともに、AI型ドリルの積極的な運用に努める。 ・「宮・未来キャリア・パスポート」を活用。	・家庭で学習に取り組む時間が少ないという回答結果が出ているため、現在力を入れている自主学習ノートの提出を中心に継続していく。 ・AIドリル等を積極的に授業の中、および、自主学習に導入していく。 ・総合・学活とを利用し、キャリア教育を推進し、話し合い活動等を取り入れ、対話的な授業を進める。

### ★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・ICT機器の活用の充実。 ・話し合い活動の充実。	・文具としてICT機器が使用できるようAIドリル以外に、話し合いの手段や意見の可視化として使用する。	・AIドリルの活用。 ・タブレット活用(ジャムボード等)により、意見表明の機会を増やしていく。 ・対話から学びが深まる授業形態の工夫を行う。